

## ベトナム国立音楽舞踊団表敬訪問

「日メコン交流年2009・21世紀東アジア青少年大交流計画」の一環として、メコン5ヶ国(タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、ラオス)が来日され、うち、ベトナム国立音楽舞踊団が、12月13日にわらび座を会場に、わらび座、角館飾山囃子との合同公演を行いました。

翌14日、ベトナム国立音楽舞踊団一行(10名)が市役所田沢湖庁舎へ表敬訪問に訪れました。

一行はこの後、乳頭温泉等を見学後帰国の途に着かれました。



## 子どもを磨いた「角館キッズ学びい教室」

今年で発足10年目となる「楽しい学習オタスケマンの会」(熊谷幸正会長)による小中学生対象の「角館キッズ学びい教室」冬休み対策が、総合情報センターで1月5日から7日にわたって行われました。

一人勉強のお手伝いに教師OB、現職、市民の方々、それに現役大学生がオタスケマン(今回指導にあられた方20人)として活躍しました。

写真は、学習後の小学校1、2年生を対象にした読み聞かせの様です。今回参加した児童生徒は、仙北市内ばかりでなく、大仙市からの児童生徒も含め延べ90人の参加がありました。地道な教育実践が家庭から喜ばれています。



### げんき通信①

#### 「花を植えましょう」

1月は翌22年度の予算づくり・組織再編作業でバタバタでした。行政懇談会や各団体の新年会などでは、市の方向性をお話しさせてもらって…。ただ、医療や福祉の充実、所得10パーセント向上、次世代育成で、どんな仙北市を生み出そうとしているのか、何だか分かりにくいのご指摘もあります。それで次のようなイメージをお伝えしています。例えば「花がいっぱいの仙北市」「食べ物が美味しい仙北市」「高齢者が散歩に出かけたくなる仙北市」「子どもが川で泳げる仙北市」などです。

“花いっぱいなんかに時間も金も使う余裕はないぞ、花より団子だ!”その通り。これは意識改革のお話ですが、実際にも花のまちに暮らす喜びを感じて欲しいと欲張っています。季節の花を楽しみながら、家庭花壇やプランターに花を植えましょう。少しの余裕が、次代の種まきをいとわない心持ちを育ててくれます。



仙北市長 門脇光浩

食べ物が美味しい!一番の魅力ですね。持続的に安全な食料を生産し、それを消費者にお届けできる仕組みづくりの実現です。学校に行きたがらない子どもが「給食は食べたい」と言ってくれたら最高です。

高齢者が散歩に出かけたくなるまち。まずは健康です。医療や福祉が整い、懐もちょっと暖かくて、気持ちよい町並みや農村風景があったり、段差のない歩道が整備されていたり、出先にお茶を飲む仲間や場所も欲しいなあ。

子どもが川で泳げるまち。これは難問です。河川や水辺環境の整備、水質浄化は基本です。夏休みに子どもを見守る組織づくりは、家庭環境や就労問題、所得が深く絡み合っています(国はこんな視点で教育政策を立案して欲しいです)。

何と多くの課題があるんでしょう。言うは易し・行うは難しかな。いえいえ、実現に向けて一歩を踏み出さないと、いつまでも思い描く仙北市に近づけません。